



来週の投資戦略 (5/8-12)

5日間で2083社も決算発表

2023年5月7日

小松 徹

注目事項 — 見所

企業決算発表 — 1-3月期は減益、今年度も小幅減益予想？

5月10日、4月の米消費者物価指数(CPI) — 全体で前年比+5.0%、コアで+5.6%？

株式市場見通し

来週の見通しを語る前に、わが国の市場が休場中に海外の市場がどう動いたかを整理しておく。連邦公開市場委員会(FOMC)の結果は市場の予想通りであったが、パウエル議長の発言が意外だった。このため、米国株式市場は全面安となったが、金曜日発表の4月の米国雇用統計が景気の先行き不安を解消し、市場全体が急反発した。ダウは火曜日からの4日間で1.1%下落、ナスダックは0.2%上昇した。この間、日本円は米ドルに対して約2%上昇した。以上から、来週わが国の株式市場は下げて始まるだろう。

来週 KPA が注目する決算発表は月曜日のユニ・チャーム(8113)、火曜日の三菱商事(8058)、ダイキン工業(6367)、水曜日のトヨタ自動車(7203)、日本製鉄(5401)、木曜日のソフトバンクグループ(9984)、金曜日の日本電信電話(9432)など。アナリストはユニ・チャームの1-3月期純利益を前年比9.5%増と予想している。前年減益だったので、これ以上の増益も期待できるかもしれない。商事は今期純利益と予想配当をどの程度出すか。アナリストは前年比推定22%減益を予想、投資家は増配も期待しているだろう。ダイキンの前期営業利益が21%増、今期予想も10%近い増益をアナリストが予想している。予想を何度も見直すので、当初の計画は低いだろう。

トヨタは水曜日午後1時25分発表予定。アナリストは前期営業利益が12%減、今期14%増と予想している。今期は回復が期待されるが、横ばいか低い増益率で出すのではないかと見ている。日本製鉄は前期微増益から今期は38%減益とアナリストが予想している。会社はどの程度の減益予想を出すか、あるいは未定とするか。SBGは業績よりも英ARM(半導体設計)の米国上場とSBGの非上場化に投資家の関心が集まるだろう。NTTへの関心は予想配当と自社株買いの発表だ。

最後に、マクロの指標で重要なこと。水曜日に4月の米CPIが発表される。全体で前年比+5.0%、コアで+5.6%が予想されている。まだ高いという印象で、これでは利上げ打ち止めの根拠にはなり難い。パウエル発言の意図が読み取れるかもしれない。米国の債務上限問題の議会の行方には十分注意したい。イエレン米財務長官が先進7カ国財務相・中央銀行総裁会議(G7)の日程を短縮して、対策に当たる。

KPAの投資戦略

ロング (買い)	ショート (売り)
好財務の割安株、今期増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。本レポート執筆時点で、KPAあるいはKPAのお客様は日本製鉄、日本電信電話を保有しています。